

な お み

理念

安全・信頼・連携・地域密着
私たちは、地域に密着した病院として、他の医療機関や関係の方々との密接な連携のもと、安全で心の通った医療・保健・福祉サービスを提供し、患者さんや地域の皆さんから信頼され選ばれる病院を目指します。

「信頼され、選ばれる病院を目指して」

医療法人正観会のあゆみ

- | | |
|----------|--|
| 昭和50年12月 | 法人設立、理事長 小林尚壬 就任 |
| 昭和53年6月 | 現在地に御野場病院開設(内科)127床
初代院長 武者傳治郎 就任 |
| 昭和58年3月 | 特例許可老人病院 |
| 昭和59年6月 | 病床数130床に増床 |
| 昭和61年9月 | 増改築工事152床に増床 |
| 平成4年8月 | 増改築工事(特殊浴室、機能訓練室) |
| 平成5年1月 | 第2代院長 小林尚壬 就任 |
| 平成7年7月 | 増改築工事(療養型病床群152床)
第3代院長 柳生昭 就任 |
| 平成8年7月 | 増築工事(CT室、薬局) |
| 平成10年9月 | 御野場訪問看護ステーション開設 |
| 平成11年9月 | 増築工事(機能訓練室、デイケア室) |
| 平成12年4月 | 療養病床(医療療養、介護療養)152床
居宅介護支援事業所、ホームヘルパーステーション、
通所リハビリテーション開設 |
| 平成13年1月 | 第4代院長 神崎正夫 就任 |
| 平成13年8月 | 第5代院長 小林尚壬 就任 |
| 平成15年4月 | 第6代院長 三浦莊治 就任 |
| 平成16年1月 | 診療科目(内科、リハビリテーション科) |
| 平成16年4月 | 日本赤十字秋田短期大学老年看護学実習病院 |
| 平成17年11月 | 御野場病院在宅ケアセンター開設(別棟)(デイサービス、訪問看護ステーション、ホームヘルパーステーション、居宅介護支援事業所) |
| 平成18年4月 | 脳血管疾患等リハビリテーション(Ⅱ)、
運動器リハビリテーション(Ⅰ) |
| 平成18年5月 | 回復期リハビリテーション病棟32床 |
| 平成19年11月 | 回復期リハビリテーション病棟36床に増床 |
| 平成20年6月 | 脳血管疾患等リハビリテーション(Ⅰ) |
| 平成20年11月 | 回復期リハビリテーション病棟入院料1 |
| 平成21年4月 | 医師臨床研修協力施設 |
| 平成21年7月 | 第2代理事長 三浦莊治就任 |
| 平成23年3月 | 回復期リハビリテーション病棟41床に増床 |
| 平成23年4月 | 第7代院長 三浦邦夫 就任 |
| 平成23年7月 | 広報誌「なおり」創刊 |
| 平成24年4月 | 平成24年度診療報酬改定により回復期リハビリテーション病棟入院料2に変更 |
| 平成25年6月 | 診療科目(内科、リハビリテーション科、泌尿器科) |
| 平成25年8月 | 回復期リハビリテーション 45床 |
| 平成26年4月 | 第8代院長 皆河崇志就任 |
| 平成26年5月 | 第3代理事長 皆河崇志就任 |
| 平成26年10月 | 回復期リハビリテーション病棟入院料1 |
| 平成26年12月 | 電子カルテシステム導入 |



看護師の特定行為

「特定行為」実施に向けた準備が着々と進んでいます。厚生労働省の諮問会議が、平成22年から導入を検討してきましたが、ここ数年で議論が急速にまとまりました。近い将来、これまで医師だけが行うことができた医療行為の一部（＝特定行為）を、医師の包括的指示のもとに看護師が施行できるようになりそうです。

特定行為の一覧（インターネットで容易に検索できます）を眺めると、『直接動脈穿刺による採血、気管カニューレの交換、経口・経鼻気管挿管チューブの位置調節、経口・経鼻気管挿管の実施、経口・経鼻気管挿管チューブの抜管、人工呼吸器モードの設定条件の変更』の順に計41項目がズラリと並んでいます。前記6項目は呼吸器関連の特定行為の一部ですが、この他に、循環器関連、ドレーン管理、創傷管理、血糖コントロール、栄養水分管理などが続きます。昨年末に41項目からまず38項目を先行して実施することが決まり、本年4月から特定行為研修施設の募集を開始、10月には看護師特定行為研修制度が施行されるということです。驚くほど迅速に制度作りが進んだことになります。

特定行為の制度が十分に機能すると、医療の現場はどのように変化するのでしょうか。現在、急性期医療を担当している大学病院や総合病院では、医師が重症患者や術後患者の管理に忙殺されることが問題になっています。例えば、深夜に人工呼吸器を使用している患者さんの呼吸状態が悪化した場合、医師が動脈穿刺による採血のために来室し、その結果をみて人工呼吸器の設定を変更します。特定行為が認められると、（資格をもった）看護師が医師と全く同じ行為を行うことができます。多くの重症患者を扱っている病院や診療科にとって



は、大きな戦力になるはずですが。慢性期医療や在宅医療の現場はどうなるでしょうか。気管カニューレの交換と胃瘻チューブの交換は医師が行っていますが、特定行為が認められると、これらの医療行為を看護師に任せることが出来ます。介護施設でも、看護師の配置を厚くすることにより、気管切開が行われた患者さんの受け入れが可能になるかもしれません。

特定行為のなかで、難易度の高い医療行為を看護師が実施することに問題はないのでしょうか。この点に関しては、医学会や医師会から反対意見が出ています。例えば『気管挿管の実施と気管挿管チューブの抜管』はともに特定行為に含まれていますが、実施については今も議論が続いています。気管挿管が難しい症例もあれば、抜管後に気道狭窄による再挿管が必要になる症例もあり、経験を積んだ医師でも困難な場面に直面することがあるからです。

様々な問題はありますが、看護師による特定行為が医療の現場で実施される日は遠くありません。その日のために、どのような特定行為を選択し実施すべきか、各医療機関はそろそろ考え始めた方が良いでしょう。

電子カルテを導入しました。



■ 当院では、平成 26 年 12 月より電子カルテシステムを導入いたしました。電子カルテの導入により、いままでの紙で取り扱っていたカルテを全てデータにて取り扱うこととなりました。

■ 院内のどこからでも患者さんのカルテが参照できるようになりました。検査結果や既往歴など診療データを即座に閲覧することができ、患者さんへの確かな診療を提供しやすくなります。



■ 患者さんにも画面を利用して説明するなどいままでよりもわかりやすく診察を行うことができます。

■ 電子カルテを導入することで、普段の診療に様々な連携が生まれます。在宅診療や訪問看護、各種訪問サービスとの連携が可能となり、迅速かつ質の高い医療・介護を提供することが可能となります。



新しいシステムや新しい仕組みに、不慣れな点があり、患者さんに迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、地域の皆様に信頼され、選ばれる病院を目指してまいりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願い致します。



電子カルテの導入をきっかけに、秋田県医師会運営の“あきたハートフルネット”（県内の病院や診療所間で、患者さんの診療情報を安全に共有できるネットワーク）への参加、さらに当院独自のカルテ共有システムを活用し、他医療機関・在宅医療との連携を更に強化していきます。

私の出身地

私は横手市の十文字町というところで生まれ育ちました。平成17年に市町村合併し横手市になりましたが、現在も十文字町という地名は残っています。横手と聞くと「雪が多い」というイメージをお持ちの方もいらっしゃると思います。本当にその通りで、毎年多くの雪が降り積もります。冬に実家に帰省すると、屋根の雪下ろしをするのが恒例となっており、今年のお正月に帰省した際もやはり雪下ろしをすることとなりました。

そんな十文字町ですが、雪が多いだけではありません。美味しい特産品もちゃんとあります。そこで今回は、私がおすすめる特産品を2つご紹介したいと思います。

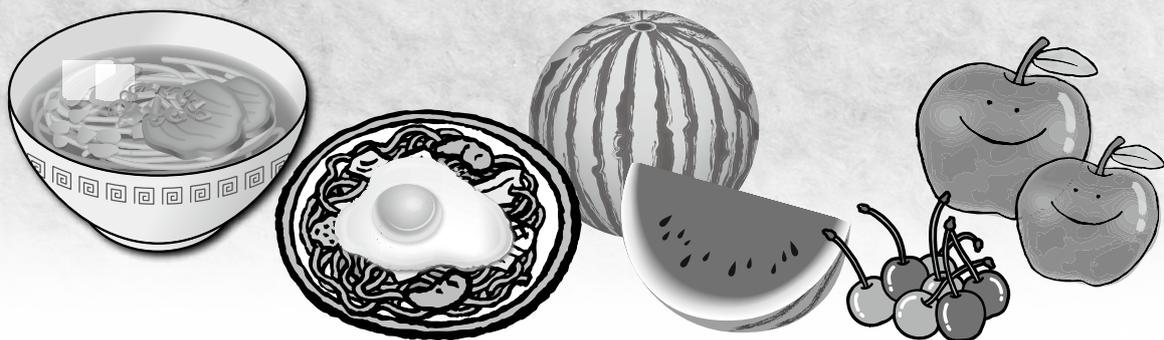
まず1つ目は「十文字ラーメン」です。聞いたことがある方もいらっしゃると思いますが、十文字ラーメンは十文字町民のソウルフードでございます。煮干しやカツオ節などの魚介で出汁をとり醤油ベースの味に仕上げたあっさりスープに、熟成された細い縮れ麺を合わせた中華そばです。発祥は昭和10年頃、重労働が多かった時代におやつ代わりとして食されることが多く名物となりました。現在では県外から十文字ラーメンを食べに来られる方もいらっ

しやるくらいの人気です。私も実家に帰省した際は、必ず食べるくらい大好きな一品です。

そして2つ目は「さくらんぼ」です。さくらんぼが有名なのは山形ではないのかと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし、十文字町もさくらんぼが有名なのです。生産されているほとんどの品種が「佐藤錦」という品種で、さくらんぼの甘みを感じることができる品種です。また、さくらんぼの収穫時期である6月中旬から7月中旬には、毎年「さくらんぼ祭り」が行われております。十文字の各地区でさくらんぼ狩りや直売があり、新鮮なさくらんぼを食べることができます。協賛イベントとして、「さくらんぼ種飛ばし大会」、「さくらんぼマラソン大会」も開催され、大変賑わっております。

この他にも横手市内であれば、「横手焼そば」、「山内いものこ」、「雄物川のすいか」、「増田のりんご」など美味しい特産品たくさんあります。横手の方に行かれる際はぜひ召し上がっていただけたらと思います。

医事課 佐々木 伸弥



3B病棟の紹介

こんにちは、3B病棟です。

3B病棟は44床の療養病棟で、急性期を終えた後の、医療の必要度が高く病院での療養を継続的に必要とする患者様が入院されています。

スタッフは、看護次長を中心とし、看護師15名、介護士13名で日々患者様に携わっています。

現在入院中の患者様は、自分から症状を訴えられなかったり、一人で出来ないことがあったり日常生活の上で、多くの援助を必要とする患者様が大半を占めています。スタッフ一同、患者様ひとりひとりと向き

合う時間を大切にし、個別ケアの充実を心掛け、患者様に安全で安楽な療養環境と満足のいくケアを提供出来るよう取り組んでいます。

スタッフは全体的に若く、子育て奮闘中の人も多数います。家庭と仕事との経験を活かしながら日々看護を行っていて、高齢者の特徴や病状を理解し、患者様・御家族の思いを大切にしたい寄り添う看護が出来るようコミュニケーションを図り、信頼関係を築き、安心出来る看護・介護を目指し協力しあって日々頑張っています。



患者さん作品



3B病棟一同

病棟案内

2階	2A病棟 (201号室～220号室)	回復期リハビリテーション病棟
	2B病棟 (221号室～233号室)	特殊疾患病棟
3階	3A病棟 (301号室～313号室)	特殊疾患病棟
	3B病棟 (320号室～333号室)	療養病棟

入院の対象となる患者さん

- 神経難病の患者さん
- 回復期リハビリテーション病棟の対象となる患者さん
- 脊椎損傷などの重度障害者
- 重度意識障害者
- その他難病患者
- それに準ずる状態の方

食事療養について

- 当病院では、管理栄養士によって管理された食事を適時適温で提供しております。

朝食：午前8時
 昼食：正午
 夕食：午後6時

立春大吉

2月4日は立春ですね。立春と言うと、春という文字からなんだか春のような暖かさを連想してしまいがちですが、立春をさかいに春らしい陽気になっていくことを意味しています。よって、立春は一番寒い。わけです。

立春から立夏までを春とし、立春は春が始まる1日目だということですね。立春の日には、“立春大吉”と書いた紙を門に貼るという習慣があるそうです。そのむかし、立春大吉と書かれた紙を貼ってある家に鬼が入っていった時、ふと後ろを振り返ると、立春大吉の文字がまた見えたため、入った家を出て行ったというお話があるそうです。

わかりましたか？立春大吉は左右対称であることから、紙の裏から文字を見た鬼が家を出たと勘違いしたわけです。

このことから、立春大吉は厄除けにいいとされたということです。立春には、立春朝搾りという立春の日に作ったしぼりたての日本酒をその日に販売するというなんとも美味しそうなイベントもあるようです。

厳しい冬も少しずつ春に向かい、皆様のもとに暖かくやさしい春の風が吹きますようお願いしております。

栄養科より



●今月は1月22日(木)のランチデーについてご紹介します。

1月といえばお正月、鏡開きや小正月は過ぎてしまいましたが、名残惜しい正月気分を、患者さんに料理でお届けしました。

常食メニューは赤魚西京焼き、海老と帆立の照り煮、若鶏八幡巻、煮物、柿の酢の物、漬物、いちご。



海老は長寿を祝うことから、照り煮とバラで使いました。

柿の酢の物は、果物を取り入れた珍しい酢の物です。

患者さんからは『彩りがきれいで食べるのがもったいない』、『海老がおいしい』と、好評でした。

未年にちなんで、今年も患者さんにうめ〜お食事を提供できるよう、栄養科一同頑張ります。

